

10月国際長老訓練#3:魂の命を失い、勝利者の携え上げにあずかり、私たちの信仰の結果である魂の救いを受ける

12/21-27 **OL Summary: I.** もし私たちが自分の魂の命を救おうとするなら、魂の命を失います。しかし、もし私たちが主のために自分の魂の命を失うなら、魂の命を救います。

A. ルカ9:23～25で主イエスは弟子たちに、自分の十字架を負い、自分の魂の命を否むことによって彼に従うように教えました/魂の命を救うとは、魂にその享受を持たせ、苦難から逃れさせることです。魂の命を失うとは、魂にその享受を失わせ、そして苦難を受けさせることです/魂の命を失うとは、魂の享受を失うことです。魂の命を救うとは、魂をその享受の中に保つことを意味します/自分を否むとは、魂の欲望、好み、選択を拒絶することです/もし私たちが主のために、この時代に私たちの魂にその享受を失わせ、苦難を受けさせるなら、王国時代に私たちの魂にその享受を持たせます。私たちは、全地を支配する主の喜びにあずかります。**B.** ルカ14:26～35で主が私たちに教えたことは、彼に従うことで絶対的になるということと、また、私たちが彼に忠信に従うことからそらし、妨害し、妨げるあらゆるものを憎み、さらには私たち自身の魂の命さえも憎むということです/信者たちは地の塩であり、彼らの塩味は、彼らが地的な事柄を捨て去ることにかかっています/信者たちは、現在の生活のすべての事柄を進んで捨て去らなければ、彼らの塩味、すなわち、神の王国での彼らの機能を失ってしまうでしょう/もし信者たちが彼らの塩味、すなわち、彼らの機能を失ってしまうなら、彼らは土地にも肥やしにも役に立たなくなります。土地は、神の農場としての召会を表徴しており、来たるべき王国をもたらします。肥やしは、地獄、宇宙の汚れた場所を表徴しています。彼らはすでに永遠の滅びから救われていますが、来たるべき王国には役に立たないので、千年期の王国の栄光から外に投げ捨てられ、わきに置かれて、懲らしめられます。』

II. 私たちは自分の魂の命を失うなら、勝利者の携え上げにあずかります。**A.** 私たちは勝利者の携え上げにあずかり、主のパルシーア(臨在、来臨)を享受して、大患難から逃れるために、今日の人の生活の麻ひさせる影響に勝利を得なければなりません/洪水以前のノアの世代と、ソドムの滅亡以前のロトの世代とを麻ひさせた邪悪な生活の状態は、主のパルシーアと大患難との前の、人の生活の危険な状態を描写しています/私たちは主イエスに従う者たちとして、この時代に自分の魂の命を失うことによって、この世の放縦な生活の麻ひさせる影響に勝利を得る必要があります。

B. 魂の命を保つことは、地的で物質的な事柄の中にとどまることと関係があります/私たちが地的な事柄の中にとどまっているのは、私たちが現在の時代における自分の魂の享受を顧みているからです/ロトの妻が塩の柱になったのは、彼女がとどまってソドムを振り返って見たからです。これが示していることは、神が裁き、徹底的に滅ぼそうとしていた邪悪なこの世を、彼女が愛し、尊んでいたということです/彼女はソドムから救い出されましたが、ロトが到達した安全な場所には到達しませんでした/彼女は滅びませんでした、完全には救われませんでした。彼女は、味を失った塩のように、

恥の場所に残されました。これは、この世を愛している信者たちにとって厳粛な警告です/私たちの魂の享受のために地的な事柄の中にとどまることは、私たちに魂を失わせます。すなわち、私たちの魂は来たるべき王国時代に、その享受を失います。**C.** ルカ17:31～36は、携え上げの召しに対する私たちの反応について語っています/これらの節が描写しているのは、罪深い事とかかわっている魂の命ではなく、地的な事柄とかかわっている魂の命です。ここの主の命令は、信者たちが実際的な生活において勝利を得ることと関係があります/生きている信者たちが、勝利者の携え上げにあずかるかどうかは、行くようにとの召しに対する彼らの反応にかかっています。携え上げは、ひそかに、突然、起こります/この召しは、私たちにおいて奇跡的な、最後の瞬間の変化を生み出すものではありません。このような変化は、私たちと主との以前の生活と何の関係もありません/その瞬間私たちは、私たちの心の真の宝を見いだすでしょう。もしこの宝が主ご自身であるなら、振り返って見ることはないでしょう/私たちの必要とすることは、十字架が私たちの中で働いて、私たちを霊の中で、主ご自身以外のあらゆる事やあらゆる人から徹底的に切り離すことです/ある人たちが取られるのは、彼らがこの時代における放縦な生活の麻ひさせる影響に勝利を得たからであり、主のパルシーアの享受の中へと携え上げられることができるからです。**D.** ルカ21:34～36で主イエスは私たちに、気をつけ、絶えず目を覚まし、祈り求めているようにと警告しています。それは私たちが、「これらの起ころうとしているすべての事から逃れ、人の子の前に立つことができる」ためです/ここの「ことができる」は、力と能力があることを意味します。大患難から逃れる力と能力は、目を覚まして祈り求めることからやって来ます/これらの起ころうとしているすべての事」は、大患難のすべての事です/「人の子の前に立つ」は、啓示録14:1の「立っており」と一致します。これが示していることは、大患難の前に、携え上げられた勝利者たちが天において、シオンの山で救い主の前に立つということです。』

III. 私たちの信仰が試されて、賛美と栄光と誉れとなって現れることは、私たちの信仰の結果である私たちの魂の救いを受けることとなります。**A.** 私たちは神の統治の下で生きるとき、さまざまな試練によって悲しむようになり、私たちの信仰が試されることを経験します/6節の試練は、信者としての私たちの生活の質を試みる苦難です/これらの試練は、神によって用いられて私たちの信仰を試し、試みて、私たちが苦難の中でキリストに従っているかどうかを見せます。**B.** I ペテロ1:9における魂の救いが意味するのは、主の出現、主の再来の時に、私たちの魂が苦難から救われて、主を完全に享受することです/主の出現の時、ある信者たちは主の喜びの中に入り、ある人たちは泣き叫んだり歯がみしたりして苦難を受けます/主イエスの出現、彼の来臨の時、私たちの魂は救われます。そして私たちは資格づけられて来たるべき時代に主の享受にあずかります。**C.** 私たちは、私たちの信仰の結果である魂の救いを受けようとするなら、「退いて崩壊に至る者ではなく、信仰を持って魂を獲得するに至る者」とならなければなりません。

**CP1: 主のあなたに対する「究極の二択」: 自分の魂の命を
否み主に従うか、自分の魂の命を救い自分に従うか**

OL1: ルカ 9:23~25 で主イエスは弟子たちに、自分の十字架を負い、自分の魂の命を否むことによって彼に従うように教えました。ルカ 9:23 そしてイエスは彼らすべてに言われた、「だれでも私について来たいなら、自分を否み、日ごとに自分の十字架を負い、私に従って来なさい。24 すべて自分の魂の命を救おうとする者はそれを失い、すべて私のために自分の魂の命を失う者はそれを救う。25 人が全世界を手に入れても、自分を失ったり損失を被ったりしたら、何の益があるだろうか?」。

OL2: ルカ 14:26~35 で主が私たちに教えたことは、彼に従うことで絶対的になるということと、また、私たちが彼に忠信に従うことからそらし、妨害し、妨げるあらゆるものを憎み、さらには私たち自身の魂の命さえも憎むということです。14:26 だれでも私の所に来て、自分の父、母、妻、子供、兄弟、姉妹、さらに自分の魂の命までも憎むのでなければ、私の弟子になることはできない。34 だから、塩は良いものであるが、塩であっても味を失えば、何によって塩味が取り戻されるであろうか? 35 土地にも肥やしにも役に立たず、人々は外に投げ捨てるであろう。

選択はあなたのものです。もしあなたが今日、自分の享受を持つことを好むなら、そのことを行なう自由があります。しかし、もしあなたがこの時代に自分の魂を救うなら、主が戻って来られる時、それを失うことを確信してください。彼は、あなたが自分の魂をとて多く享受したので、今やあなたがそれを失う時であるとあなたに告げられるでしょう。あなたはどちらを選ぶでしょうか? すなわち、今日あなたの魂を失って明日それを得るか、それとも今日それを得て、明日それを失うかです。

仮にブラザーズハウスに住んでいる兄弟たちが、キリストと召会の建造に関するビジョンを見たとき、彼らは、主が彼のエコノミーのために召会生活を回復することを願っているのを認識しています。しかしながら、...失望させる状況のゆえに、ある兄弟たちはそのブラザーズハウスから引っ越しすることを考えるかもしれません。しかし、もし彼らが引っ越しなら、自分の魂を救い、自分自身のために安易な道を持つことになるでしょう。ある兄弟は実際に、そのブラザーズハウスから別のブラザーズハウスに引っ越しするかもしれません。彼は数週間後に、そこでの状況が同じであることを知ります。それから、彼はその国の別の地域の召会に引っ越しします。...彼は新しい地方に到着し、そのブラザーズハウスに引っ越したとき、彼が去ったブラザーズハウスよりさらに悪い状況を見いだします。この時点で彼は召会生活に失望し、完全に召会を去る決心をするかもしれません。もし彼がこのことを行なうなら、極みまで自分の魂を救うことになります。

適用: 新人及び青少年・大学生編

新人や若者の皆さんは、既に主イエスの御名の中へと信じ、主と結合され、救われました。従ってあなたは、火の池の中で滅びる心配は一切ありません。現在あなたの問題は、召会生活をどのように過ごし、勝利を得たクリスチャンになるのか、あるいは敗北したクリスチャンになるのかという事です。この事は、召会時代の後の千年王国において、**① 1000年間、主と共に享受し、支配する**のか、あるいは**② 1000年間、暗闇**

の中で厳しい訓練を受けるのかを決定します。その他の選択はありません。あなたは第三の選択がないことをよく理解してください。愚かになり自分で第三の選択を作り出せると考えて、時間を無駄にははいけません。イエスは主であり、私もあなたも主ではありません。主はあなたに「究極の二択」を提示しています。

次に、あなたと共に究極の二択について見ていきます。勝利者の定義は、集会をしている人ではありません。もちろん、集会に来ない人が勝利者になることはできません。なぜなら、神のエコノミーのゴールは、召会、キリストのからだを建造することですので、個人主義のクリスチャンが勝利者になることはできません。勝利者になるために、以下の二つの事を実行してください。**① 召会生活を**実行し、キリストを命として享受する。**② 魂の命の享受を十字架に付け、キリストをパースンとする。****②**に到達するために、先ず**①**を実行しなければなりません。

神を見出すためには、キリストに来なければなりません。なぜなら、神はキリストの中に住んでおり、キリストの外には、神はおられないからです。キリストは神の奥義です。更に、召会はキリストの奥義であり、キリストは召会、キリストからだの中におられます。簡単に言って、召会生活の中で、聖徒たちと共にキリストを命として享受してください。正常な召会生活は、個人的な主との交わりを含みます。あなたは、主と個人的に話してください。例えば、あなたは弱くなった時、正直に「主よ、私はそれほどあなたを愛していません」と言うかもしれません。そうすると主は、「私は永遠の愛であなたを愛している」と言われます。主と会話していると、主はご自身をあなたの中に分与することができます。その時、あなたは主の愛によって、主を愛し返すことができ、「主イエスよ、あなたを愛します」と言うことができます。

次に、あなたは自分の魂を十字架に付け、その享受を失い、勝利者になってください。それは、自分の好み、考え、感覚に従うのではなく、キリストをパースンとしてすべてのことを決定することです。これが主の回復の中で、主が要求している勝利者の証です。

兄弟の証: 私は大学生の時、同じクラブの人たち皆に福音を伝えていましたが、ある一人の同級生のことは苦手で、「彼は救われて欲しくない」と密かに考えていました。ある日、彼は「自分以外の同級生は全員クリスチャンになったので、次は自分が狙われている。しかし私は決して信じない」と言っているのを聞きました。私は直ちに悔い改めて、「私の間違った決定の罪を告白します。彼を必ず救ってください」と祈りました。私が彼を訪問した時、彼は昼間なのに突然お風呂に入ると言い出しました。私は福音のために育みが必要であると感じ、自分の魂の「嫌い」な感覚を否み、彼に付いて行って寮の大きな共同風呂に一緒に入り、彼の背中を洗ってあげました。彼は大変喜んでいました。その後、しばらくして彼も救われ、クラブ活動の同級生6名全員が救われました。**祈り:** 「おお主イエスよ、主は私に『究極の二択』を提示しておられることを見ました。勝利者になるために、私はまず、召会生活の中でキリストを命として享受し、更に魂の命の享受を十字架に付け、キリストをパースンとする必要があります。正直に主に開き、主からの分与を受けて、自分の感覚を否み、主に従うことができますように。アーメン!」

CP2:あなたには、勝利者となり、大患難の前に天に携え上げられ、主の前に立つ能力がある

OL1:ルカ17:31～36は、携え上げの召しに対する私たちの反応について語っています。これらの節が描写しているのは、罪深い事とかかわっている魂の命ではなく、地的な事柄とかかわっている魂の命です。この主の命令は、信者たちが実際的な生活において勝利を得ることと関係があります。携え上げは、ひそかに、突然、起こります。この召しは、私たちにおいて奇跡的な、最後の瞬間の変化を生み出すものではありません。このような変化は、私たちと主との以前の生活と何の関係もありません。その瞬間私たちは、私たちの心の真の宝を見いだすでしょう。もしこの宝が主ご自身であるなら、振り返って見ることはないでしょう。私たちの必要とすることは、十字架が私たちの中で働いて、私たちを霊の中で、主ご自身以外のあらゆる事やあらゆる人から徹底的に切り離すことです。ある人たちが取られるのは、彼らがこの時代における放縱な生活の麻ひさせる影響に勝利を得たからであり、主のパルシーアの享受の中へと携え上げられることができるからです。**ルカ17:32** 口の妻を思い出さない。**33** すべて自分の魂の命を保とうとする者はそれを失い、すべて魂の命を失う者はそれを生かす。**34** 私はあなたがたに言う。その夜、二人が一つの寝床にいと、一人は取られ、一人は残される。**35** 二人の女が共にうすをひいていと、一人は取られ、一人は残される。

OL2:ルカ21:34～36で主イエスは私たちに、気をつけ、絶えず目を覚まし、祈り求めているようにと警告しています。それは私たちが、「これらの起ころうとしているすべての事から逃れ、人の子の前に立つことができる」ためです。ここの「ことができる」は、力と能力があることを意味します。**21:34** あなたがたの心が酪酊、泥酔、生活の思い煩いで押しつぶされているところへ、その日が罨のように、突然あなたがたに襲いかかることがないように、気をつけなさい。**36** しかしあなたがたは、絶えず目を覚まして祈り求め、勝利を得て、これらの起ころうとしているすべての事から逃れ、人の子の前に立つことができるようにしなさい。

ルカ17:35の「うすをひく」と、マタイ24:40の「畑にいる」という言葉は、生活のために働くことを表徴します。信者たちはこの生活の必要によって麻ひさせられるべきではありませんが、生活のために働く必要があります。生計のための正常な仕事を放棄するといういかなる思想も、サタンの策略のもう一つの極端です。

私たちが大患難の前に携え上げられ、取り去られて御座の上のキリストに会うかどうかは、彼にかかっているわけではありません。それは私たちが目を覚ましていることと、特別な方法で私たちが祈ることとにかかっています。

私たちは勝利を得て逃れ、勝利を得て大患難を免れることができるべきです。...これは携え上げられて天のシオンの山で人の子の御前に立つことです。それから彼は私たちと共に彼のパルシーアを開始されるでしょう。彼が御座を離れて地に戻って来られるとき、私たちは彼と共にいるでしょう。それは何と興奮することでしょう!

適用:ビジネスパーソン・大学院生編

この時代の最後、主の来臨(パルシーア)の直後、3年半の大患難が始まります。そして大患難の終わりに、主は公に戻って来られ、千年王国を設立します。大患難は今まで起こったことのない大きな患難で、超自然的な災害を含みます。主は勝利を得る者を大患難から逃れさせ、天に携え上げます。

マタイ 24:21 その時には、世の初めから今に至るまで起こったことがなく、今後も決して起こらないような大患難があるからである。**29** それらの日の患難の後、すぐに太陽は暗くなり、月はその光を放たず、星は天から落ち、天の勢力は震われる。

魂の命を保つことは、地的で物質的な事柄の中にとどまることと関係があります。私たちが地的な事柄の中にとどまっているのは、私たちが現在の時代における自分の魂の享受を顧みているからです。口の妻が塩の柱になったのは、彼女がとどまってソドムを振り返って見たからです。神が裁き、徹底的に滅ぼそうとしていた邪悪なこの世を、彼女は愛し、尊んでいました。

ビジネスパーソンであるあなたは、うすをひく、あるいは畑にいるという実際的な仕事の生活の中で、金銭愛を含む時代の麻痺させる力に打ち勝つべきです。あなたに注目してもらいたいのは、**ルカ 21:36** は「**すべての事から逃れ、人の子の前に立つことができる**」と述べていることです。「ことができる」とは、あなたが勝利者になる力と能力をあなたは持っているという事です。そして、大患難から逃れる力と能力は、目を覚まして祈り求めることからやって来ます。

あなたは信仰を持って、次のように宣言してください、**「I am able to be an overcomer in Christ through prayer. 私はキリストの中で、祈りを通して、勝利者になることができます」**。神はあなたにできないことを要求しているではありません。あなたの内住のキリストには能力があります。あなたの必要は、聖書の御言葉を読み、御言葉を信じ、御言葉に従って祈ることによって、内住のキリストを成長させることです。実際的な職場や研究室の環境で、絶えず主の御名を呼び求め、短い祈りを実行して、主と一つ霊を実行することを訓練してください。**祈り1:**「おお主、アーメン、ハレルヤ! おお主、アーメン、ハレルヤ! 私は主の中で一切のことを行うことができます。私は勝利者になる能力があります。アーメン!」

あなたが信仰によって、このように勝利者になるための祈りをすればするほど、あなたは文化から出て来て、キリストをパーソンとし、勝利者になることができます。

IIコリント 4:13 私は信じた。それゆえに私は語った」と書いてあるとおり、同じ信仰の霊を持っているので、私たちも信じ、それゆえにまた語るのです。

FN「信仰の霊」:信仰の霊とは、聖霊と私たちの人の霊とのミングリングです。私たちは、...そのような霊を活用して、信じ、語らなければ(祈らなければ)なりません。...疑いは、私たちの思いの中にあります。

祈り2:「おお主イエスよ、職場や研究室で勤務に働く時に、絶えず主の御名を呼び求め、短い祈りを実行します。金銭愛や生活の思い煩いに押し潰されて、麻痺させられることに打ち勝つことができますように。信仰を活用して祈り、文化から出て来て、キリストをパーソンとし、勝利者になることができますように。アーメン!」

CP3: 主の贖いの血を適用し、命としての主を享受して、自己を否み、キリストをパースンとする

OL1: 私たちの信仰が試されて、賛美と栄光と誉れとなって現れることは、私たちの信仰の結果である私たちの魂の救いを受けることになります。**1** ペテロ 1:7 あなたがたの信仰が試されることは、...火によって試され...、イエス・キリストの出現の時に、賛美と栄光と誉れとなって現れるのです。**8** あなたがたは、その方を見たこともないのに愛しており、その方を今、見ていないのになお信じており、言葉では言い尽くせない、栄光に満ちた喜びをもって歡喜しています。**9** それは、あなたがたの信仰の結果である魂の救いを受けているからです。**OL2:** 主の出現の時、ある信者たちは主の喜びの中に入り、ある人たちは泣き叫んだり歯がみしたりして苦難を受けます。

OL3: 私たちは、私たちの信仰の結果である魂の救いを受けようとするなら、「退いて崩壊に至る者ではなく、信仰を持って魂を獲得するに至る者」とならなければなりません。ヘブル 10:35 こういうわけで、あなたがたの大胆さを投げ捨ててはなりません。それには大いなる褒賞があります。**39** しかし、私たちは、退いて崩壊に至る者ではなく、信仰を持って魂を獲得するに至る者です。

若者は教育を終え、良い職業を見つけ、そして非常に嬉しい結婚生活を持つことを期待するかもしれませんが。しかしながら、彼らはこの地上にパラダイスがないことを認識する必要があります。私たちは苦難の領域から慰めの領域へと救われるのに、主の来臨を待たなければなりません。それは私たちの魂の完全な救いとなるでしょう。私は良い妻を持ち、聖徒たちと諸召会に愛されていますが、私の魂において多く苦しみ続けていると証しすることができます。だれも私を助けてこの苦難を避けさせることはできません。ですから、私は主イエスの出現を待っているのです。彼の再来の時、私はこの苦難の領域から救い出されて、享受の領域の中へと入ります。その領域において、私たちは三一の神と、彼であるすべて、彼が持っており、完成し、到達し、獲得したすべての満ち満ちた享受を持ちます。

この時代に自分の魂を失うことは、主のために人の方法で苦難を受けることです。今日私たちが主に従うなら、必ず彼のために苦難を受けるでしょう。あなたは忠信で、真っすぐにイエス・キリストに従う者であるので、あなたの教師はあなたに良い成績を与えないかもしれませんが。またあなたは職場で昇進しないかもしれませんが。そのような多くの事は、自分の魂を失うことと関係があります。...今日、自分の魂を失うこのことは、次の時代に魂を獲得することの条件です。次の時代に自分の魂を獲得することは、主の喜びと王として支配することの中へと入ることです。マタイ 25 章のたとえによれば、主は忠信なしもべたちに、「あなたの主人の喜びの中に入りなさい」と言われました。主の喜びの中に入るとは、来たるべき王国において彼が王として支配することの中に入ることです。この時代は私たちが苦難を受けるためであり、次の時代は私たちの享受のためです。

魂を獲得することは成就と等しく、成就は栄光化と等しいのです。次の時代に栄光化されること、成就されること、自分の魂を獲得することはすべて、一つの事、すなわち褒賞を指しています。

適用: 奉仕者編

あなたの信仰は、苦難を通した試練によって試される(または証明される。It is proved)必要があります。例えば、学生は試験によって、彼の勉強の成果が証明され、評価されます。あなたは、「だれでも私について来たいなら、自分を否み、日ごとに自分の十字架を負い、私に従って来なさい。すべて自分の魂の命を救おうとする者はそれを失い、すべて私のために自分の魂の命を失う者はそれを救う」(ルカ9:23~24)という言葉聞き、「アーメン」と言い、それを受け入れました。しかし、実際の状況でこの事を実行しようとする、内側に葛藤があります。

例えば、奉仕の交わりの中で、ある事柄を決定しました。しかし、実際に奉仕する時、その交わりでの決定を忘れる、あるいはその決定を軽視する、あるいは決定に従いたくないので無視するなどの行動があり得ます。これらは、自分の魂の命に従って奉仕することで、魂を喜ばせることです。このような時、あなたは神の分与に開いて主と交わる必要があります。

祈り1:「主よ、私はあなたを離れて、何もすることができません。ぶどうの木が枝が木から離れては、何もできないのと同じです。主イエスよ、私は主の中に住み、あなたから新鮮な分与を受け続けます。実際的な奉仕の中で、自分を否み、自分の十字架を負い、交わりに従ってからの奉仕を実行することができますように!」

このように短く祈り、神の分与に開き、自分の魂を十字架に付けるなら、あなたの信仰は試練によって証明されます。それは主の出現の時に、あなたの魂が救われて、主の喜びの中に入るためです。自分の魂の命を否み勝利者になることについて、以下の三つの事が重要です:

① キリストが十字架上で成就した贖いの血を適用する: 信者は信仰によって、贖いを根拠に既に救われました。しかし生活の中で、失敗し罪を犯したなら、直ぐに罪を告白して御子イエスの効果のある血を適用してください。そうすれば、主との命の交わりを回復することができます。

② キリストを命として享受する: 召会生活と主との個人的な交わりの中で、毎日、主を食べ飲み享受してください。

③ キリストをパースンとして取る: キリストをパースンとすることは、あなたの決定の中で現れます。あなたの決定の中で、自分の魂に従って決定するか、あるいは、自分の魂を否み、キリストをパースンとして取り、キリストを生きるかの二つの道があります。あなたは自分の魂を否むか、キリストをパースンとすることを否むかのどちらかです。魂にはパースンと機能があります。魂のパースンは否まなければならない。しかし、その機能は引上げられ更新されます。魂を否むとは、魂のパースンを否み、キリストをパースンとして受け入れることです。あなたは内側に二人の人を持って、物事を決定することはできません。あなたが主の分与の下で、自己を否み、キリストをパースンとする証しに到達できますように! これが主の回復の証しです。決して上記の**②**の段階に留まってははいけません。マタイ7:26 **そして、私のこれらの言を聞いて行なわない者はすべて、自分の家を砂の上に建てた愚かな人にたとえることができる。****祈り2:**「主の分与の下で、自己を否み、キリストをパースンとし、主の回復の証しを担うことができますように。主の回復は勝利者を生み出して主の再来をもたらすためです。ハレルヤ!」